

ら良いか) について、ご意見をいただけますでしょうか。

以上の審議事項に関する回答フォームと議事3の意見交換に関する回答フォームを用意しております。

こちらに記入いただき、返信いただけますでしょうか。

【議事4 審議事項に関する回答フォーム】

- ・議事4について 了承 / 不承認 (←どちらかお選びいただき、不要の選択肢を削除してください)
- ・資料4-3に関するコメント：
- ・資料4-4に関するコメント：
- ・その他、議事4に関するコメント：

メール審議のご回答方法

- ・3月16日(月)17時までにご返信ください。宛先は、co_sparc_all@nii.ac.jp となります。
- ・ご回答を事務局にて集約し、本年度中に審議結果をご報告いたします。
- ・議事3に関するコメントも3月16日17時を期限とさせていただきますが、もし各機関や団体にお持ち帰りいただいた上でご返信いただけるようでしたら、3月16日以降も受け付けております。

2. 委員からの回答

① 倉田委員ご回答

【議事4 審議事項に関する回答フォーム】

・議事4について 了承 / 不承認 (←どちらかお選びいただき、不要の選択肢を削除してください)

単純に回答できません。以下のコメントを読んでください。

- ・資料4-3に関するコメント：特にありません
- ・資料4-4に関するコメント：以下に書きました
- ・その他、議事4に関するコメント：以下に書きました

議事4の審議とは資料4-1についてでよろしいのでしょうか。

資料4-1 レベルの抽象的というか具体性のない活動計画であれば「承認」いたします。

資料4-3 はこれまでと同様の枠組みで行うという意味で資料としてはあまり情報がありませんが、別にこれも承認でかまいません。

資料4-4に関しては、ほぼ報告に留まり、2020年度に関してはトピックと体制をどうしようかと投げかけられているだけでこれで何をどう承認すればいいのかわかりません。トピックが決まる前から担当者を決めてその人の判断と事務局でやっていくというのは、あまり賛成できることではありません。また、トピックに関して例示されているハゲタカジャーナルやSci-Hubに関して今更何か情報を収集して翻訳を含めて公開する必要があるのかについて、私は疑問です。それなら、海外のトランスフォーマティブアグリーメントの動向をまとめた方がよほどおもしろいと思います。ただ、トランスフォーマティブアグリーメントはJUSTICEの範囲で、SPARCが扱うことなのかというのは疑問があるので、提案したいトピックというわけでもありません。特に次々の情報を変化していくので、SPARCのような静的なサイトで年1、2回公開するのには向いていないと思います。

資料4-2が一番訳がわかりません。これは会議があることを前提に作成された資料であり、現時点で示された資料でポジションペーパーなのでしょうか。各機関が自分たちの活動、課題を書いたというのがポジションペーパーならそれは書かれていると思いますが、俯瞰図は全く俯瞰になっていませんし、図をわかりやすく示したと仰る表は各機関が書いていることをまとめただけで、俯瞰になっていないと思います。

各機関が書いた活動、課題、他のステークホルダーへの期待になってしまっており、ステークホルダー同士の連携という場合、どういうトピック、活動、課題にどう連携をとるべきかという視点で整理すべきで、各機関ごとにしてしまっただけでは俯瞰したいという意図は達成できないと思います。

たとえば、研究データに関して、NIIのGakunin-RDM、JPCOREの研究データの教材作成・提供、JSTのRDA活動の少なくとも3つがまとめて見られないといけないのではないでしょ

うか。しかし、それらは人材育成、インフラ、国際イニシアティブとなっていてしまっており、それらに本来は連携とまではいいませんが、関連や情報共有が必要になるのではないかと、そういう気づきは全くおこっていません。それは各機関が各機関の立場と用語で書くからそうなるのは当然で、まずはそれを提示してもらうのはいいですが、そこから学術コミュニケーション、学術情報流通に関わる場面や課題毎にもっと具体的な活動内容などを聞き出して、整理し直すことをしなければ俯瞰には全くならないと思います。

国際商業出版社への対応に関しても、JUSTICE の EJ 契約交渉だけしか出てきておらず、プレプリントサーバの動き、分野別リポジトリ、figshare やデータレポジトリなどの動向などには全くふれられていません。これでは世界的な動向を踏まえた俯瞰図にはなりようがありません。世界的な潮流、動向の把握の部分が抜けたまま、日本のステークホルダーの活動だけ書いても、戦略にどうつながるのかはわからないと思います。

さらに資料 4-2 に関して、

○今後の作業スケジュール

2019 年度中に、どのような成果物をどのような体制で目指すかを確定する

・ 2020 年 2 月頃 (第 2 回) : 各ステークホルダーの準備物と世界的な動向を俯瞰したマップを用意して、今後のまとめ方について意見交換

というのはもう 2 月が終わっている段階で、何がどう今後の作業になるのか意味不明です。私には今回の資料からだけで、何を指すのかのイメージは全くわかりません。これで 2020 年度中にどういう提言がまとめられるのか全くわかりません。

資料 4-2 を含めて承認して欲しいということなら「不承認」と言わざるをえません。

【議事 3 に関するコメント :】

議事 4 との関連で上記にも書きましたが、これは各機関の活動、立場の表明であり、それをどういう視点に立って整理していくかという部分の議論なしに、今後の戦略を立てることはできないと考える。

学術コミュニケーション、学術情報流通においては、研究プロセスが基本であり、研究プロセスのステップ、場面別にどの機関のどの活動がどう関与してくるのかという視点でまとめ直すのがいいのではないかと個人的には思うが、これはまさに委員会の場で議論し、さらには各危険からそういうことなら、我々もこういう活動をしているとか、ここで書いたのはそういう意味ではないとか、それぞれの説明を聞いてすりあわせをしていくべきではないのか。各機関の立場を横並びにしても全体の俯瞰をすることは望めないと思います。

② 小賀坂委員ご回答

【議事3に関するコメント：】

- ・ボトムアップの精神に従ってポジションペーパーを作成した結果と思われませんが、結果として粒度感・レベル感がまちまちになり、事務局もとりまとめに苦労されたことと思います。
- ・先般も議論があったとおり、どのような文脈でのポジションペーパー・提言であるのか、明確にしてはどうかと考えます。
- ・また、どのような文脈であっても、当委員会がカバーするステークホルダーで網羅できるのではなく、必ずより広い範囲のステークホルダーを包含した俯瞰が必要になると思います。
- ・従い、今後の提言に向けてが、再度テーマや文脈を（もう少しフォーカスして）設定し、各ステークホルダーに立場表明を求めるべきではないかと思えます。
- ・なお、資料を拝見すると、やはり国立情報学研究所及び近いステークホルダーの世界観が強く表れていますが、当委員会の性格に鑑みれば差し支えないものと認識しました。

【議事4 審議事項に関する回答フォーム】

- ・議事4について 了承
- ・資料4-3に関するコメント：セミナー企画案について、委員より様々な、時には厳しい指摘も相次ぎました。企画に求められる完成度について、委員間で意識合わせをしてはいかがでしょうか。WG主査は「若手の練習のつもりで企画・運営を任せている」と発言しましたが、必ずしも委員の認識と合っていないのかも知れません。個人的には、練習の場は他に求めるのがよいのではないかと思いました。
- ・資料4-4に関するコメント：(特にありません)
- ・その他、議事4に関するコメント：
 - ・資料4-1「(2) 国際協調に係る戦略の検討と提言」に、各種国際会議や委員会等が列挙されていますが、これは「委員会として」行う（つまりクレジットは委員会委員）活動、ということでしょうか、それとも委員が「たまたまそれぞれの肩書き・立場で」行っている活動でしょうか。いずれかによって記載すべき案件は大きく変わると思います。今一度ご検討下さい。

3. メール審議結果

昨日までを期限としてお願いをしておりましたメール審議について、ご検討いただきまして、ありがとうございました。

送付しました資料が大部になり、また、会議での利用を念頭に準備しておりましたので、ご不便をおかけいたしました。申し訳ございません。

倉田委員、小賀坂委員から、提案内容に関するコメントをいただきました。武田委員長に相談しまして、提出しました議事について、以下のように進めさせていただきたいと思っております。

- 資料 4-1 活動計画（案）

こちらは、添付します資料のように、項目(1)の説明から「ポジションペーパーを基にした」の文面を外す表現にいたしました（添付ファイルをご参照ください）。

今回は、いただきましたポジションペーパー及びそれを基に作成した俯瞰図（案）について、改善点や今後の使い方について意見交換をする十分な時間を設けることができませんでした。このことから、今後のポジションペーパーの使い方そのものを2020年度に議論することとし、当初の活動計画からは文言を外す形にいたしました。

- 資料 4-2 国内外のオープンアクセス・オープンサイエンス推進のための戦略提言について
こちらは上述のとおり、今回の審議では俯瞰図（案）の改善点や今後の使い方について意見交換をする時間を設けることができませんでしたので、2020年度の議事として扱わせていただきます。

- 資料 4-3 2020年度 SPARC Japan セミナー企画ワーキンググループ（WG）の設置について

こちらは、提出しました資料のように進めさせていただきます。

別途、詳細な進め方につきましては、委員からいただきましたご意見を踏まえて、林委員（WG主査）とご相談させていただきます。

- 資料 4-4 海外動向を踏まえた情報発信について

こちらは、2020年度の議事で改めて扱うことといたします。

今回は扱うテーマやその方法といった詳細までを意見交換することができませんでしたので、活動そのものの継続を確認したところまでとさせていただきます。

- 資料 4-5 学術情報流通に係る調査内容について

こちらは、提出しました資料のように進めさせていただきます。

以上のことから、活動計画（概要）と SPARC Japan セミナーの準備、海外動向の調査の3点につきましては、資料のように進めさせていただき、ポジションペーパーの活用と情報発信については、引き続き2020年度の会議で意見交換をした上で具体的な活動に移らせていただきます。

このことについてコメントをいただけるようでしたら、今回は短い期間となりますが、3月19日（木）17時までに事務局までご返信いただけますでしょうか。

もし特段のご異論がないようでしたら、今回のメール審議はこれで終了とさせていただきます。年度末のお忙しいところ恐れ入りますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。